

老老介護の末とともに凍死

SOSなし見守り届かず

中

人孤2

いつもの朝、いつもの
ごみ出し……のはずだった。
大阪府枚方市の住宅
街。70代の女性は、腰なし
みの高齢夫婦の家の前を通
りかかり、立ち止まつた。
玄関扉の下の隙間から、水
が流れ出していた。

「何いどやろ」。そういう
えば、ぐわん外の洗濯物は
取り込まれていなかつた。
夫に相談し、自治会の役
員を呼んだ。隣の鍵はかか
つておらず、開けて声を掛け
ても反応はなかつた。

通報で駆けつけた警察官
が中に入り、夫婦の遺体を
見つけた。2018年12月
のことだ。

枚方署によると、妻（当
時89）は1階の和室のいた
つた足を入れて横たわり、
夫（同80）はそのそばで仰
向けに倒れていた。
ともに凍死だつた。いつ
亡くなつたのか定かではな
い。急に冷え込んだ2日前
の最低気温は零下0・2度
だった。水は、台所の蛇口
から出しづはなしで、シン
クからあふれていた。
夫婦を知る人によると、
妻とは認知症の症状がみら

れた。脳梗塞の後遺症で歩くのが難しく、視力も弱かつたとみられる。介護は夫が担い、通院や買い物の際、妻の体を支えて付き添う姿が見かけられていた。

高齢者同士の「老老介護」。夫が先に倒れ、妻も

助けを呼べぬまま、「亡くなつたのだめうか。誰にもみとられずに」といふ世帯に限った問題ではない。寄り添つて暮らす夫婦

や親子が、ともに自宅で逍
遊する人が見つかる。そんなケースが近年、各地で相
次ぐ。それぞれの現場から
は、夫婦の遺体が見つかつた。
誰かが「2人だから安

心」と言えない現状だ。

東京は連日、うだるよう
な暑さが続いている。新宿
区の西武線沿線の住宅街。
古めかしい木造住宅の庭木
は生い茂り、伸びた枝が道
にはみ出していた。

19年8月、ポストじたま
った新聞に隣人が気付き、
住人の高齢姉妹の死が明ら
かになつた。

戸塚署によると、ともに
熱中症で倒れた可能性があ
るといふ。80代の妹が半月
ほど前に住所で「亡くなり
ました」と告げ、1週間ほど
後に墓地で「亡くなつたと推
定された。

90代の姉は周囲に知らせる
ことができず、1週間ほど
後には墓地で「亡くなつたと推
定された。

妹を知る近所の女性は
「認知症になつたお姉さん
の世話を付きっきりでして
いるという話を町内の人か
ら聞いた」と振り返り、
「私にできることはないなかつ
たのでしようか。悔しい」と
とうつむいた。

吹田市の場合、地域の医
生養育が、見守り対象住居
の緊急連絡先や健康状態な
どを書いた「安心・安全方
針」を管理していたとい
う。だが、対象は70歳以上
の独居や75歳以上の高齢者
世帯で、亡くなつた60歳の
夫婦は外れていた。

「自分からSOSの発信

がなくとも世帯10人に
ける」。

大阪府内では昨年末から
の半年で、「2人孤死」
とみられる事例が、府警へ
の取材で把握できただけで
少なくとも世帯10人に
なる。

昨年12月、大阪市港区の
マンションで68歳の母と42
歳の娘が餓死。室内にあつ
た現金は10円玉一枚と1円
玉3枚の計13円だった。食
べ物は残つておらず、水道
やガスは料金未納で止め
られていたが、生活保護は受
けていなかつた。

同月、大阪府吹田市の団
地の一室で、ともに67歳の
夫婦の遺体が見つかつた。
夫婦の遺体が見つかつた。
足が不自由な妻の介護を担
う夫が心疾患で急死し、十
分な食事をとれなくなつた
妻が1ヶ月2週間後に亡くな
つたとみられる。

今年1月、高槻市では93
歳の母と68歳の娘。同月、
大東市では80代の母と60代
の息子。3月、大阪市生野
区でも80代半ばの夫婦。も
うと早く、誰かが気づいて
とは言なかつたのだもう
か。

吹田市の場合は、地域の医
生養育が、見守り対象住居
の緊急連絡先や健康状態な
どを書いた「安心・安全方
針」を管理していたとい
う。だが、対象は70歳以上
の独居や75歳以上の高齢者
世帯で、亡くなつた60歳の
夫婦は外れていた。

「自分からSOSの発信

がなくとも世帯10人に
なる。

だが、対象は70歳以上
の独居や75歳以上の高齢者
世帯で、亡くなつた60歳の
夫婦は外れていた。

がなくとも地域でも積極的
な見守り対象になりにく
い。2人暮らしで、どちら
かが元気だら、あるいは難
い」と高齢福祉室の担当者
は言つ。

2人だから安心ではな
く、2人だったため、見守
りの網から漏れていた。



誠死した母と娘が暮らしていたマンション（手前）。大阪府吹田市、森田樹撮影